

私たちの視察 2020年2月22日～25日

2020年1月12日ルソン島南部のタール火山が噴火、その被害状況も良く判らないうちに、コロナウイルスの流行が始まり、今回の視察も危ぶまれましたが、パガサマニラ支部、エルダ財団のスタッフの皆様のサポートのおかげで無事に行うことが出来ました。2月22日、23日には、C基金で支援中の大学生7名、C基金で支援し大学を卒業した社会人7名と面談、アジア婦人友好会支援の小中学生4名と面談しました。24日は、エルダのスタッフとのミーティングを行い、今後の方針について協議し、エルダテックでは、校長先生を含むスタッフから現在の状況について聞くことが出来ました。以下、子どもたちの様子をご報告いたします。

C基金で大学を卒業した社会人と面談 2月22、23日@比日会館



←バージニア(24才)とロネル(21才)共にC基金で大学を卒業後、教師の国家資格を取得。現在、私立学校で教えています。

2人ともより待遇の良い公立学校で教えることを希望しています。

ロネルは、家族への支援が出来る喜びと、大学院にも行きたい夢を語ってくれました。

アーヴィン(28才)とガールフレンド → 女子学院、C基金で支援し大学を卒業。日系の会社でプラント施設の配管を設計、施工する技術者として働いています。難しく神経を使う仕事ですが、給料も良く、去年は業績を認められ表彰されました。彼が支援していた2人の妹も無事に大学を卒業。去年、ついに2階建ての家を購入！今回の面談にはガールフレンドも一緒に来てくれました。着実に人生の階段を上がって行くアーヴィン。きっと彼なら幸せな家庭を築けると思えました。



C 基金支援生と面談 2月23日@比日会館



ジョイス(20才)とハーベイー(19才)
共にパガサの支援でエルダテックを卒業し、C基金で支援中の大学1年生。

・ジョイスは、建築士を夢みて大学に進学したものの、専門科目はとても難しく、課題提出の為に徹夜も、と涙目で話してくれました。職業訓練校であるエルダテックを卒業し、一般の高校からの生徒と同じ環境で学ぶのは、相当困難を伴います。そんな中でも優等生名簿に載ることが出来たジョイスの頑張りに拍手！

・ハーベイーは、エルダテックで学んだ自動車の知識をもっと深めたいと大学に進学、学校のレーシングカーを作成するコンテストでセミファイナルまで残ったそうです。母子家庭のハーベイーが、充実した大学生生活を送る様子に胸が熱くなりました。

アジア婦人友好会基金支援の子どもたちと面談 2月23日@比日会館

アジア婦人友好支援プロジェクト【Barangay20】の子どもたち4名と面談。5名を支援中ですが、母を亡くしたり、結核に罹ったりと学校を続けるのが厳しい状況になって来ている子もいます。引き続き様子を見てくれるようソーシャルワーカーに依頼しました。

写真左からリーン(14才)、アルハンドラ(14才)、レナリン(9才)
3人とも政府の援助を受ける貧困家庭で、生活は厳しいが、成績は良く、勉強は楽しいと言う。

レナリンは、パガサ30周年のお祝いに歌を歌ってくれました。

